

12th ISSCO（世界海外華人研究大会） 参加報告書

広域システム系 人文地理学研究室 D2

嵯 宸 JI CHEN

2025年11月4日から7日にかけて、マレーシア・クアラルンプールのマラヤ大学にて開催された ISSCO（世界海外華人研究大会）に参加した。本大会では、「**亞族裔性与海外华人社区的转变：以横滨关帝诞为例**」（中国語）と題して口頭発表を行った。

本国際会議には、海外華僑・華人研究に関する歴史学、社会学、地理学など多分野の研究者が参加しており、日本、マレーシア、中国本土、台湾など各地からの研究者による学術交流を目的として開催された。院生をはじめとする若手研究者の参加も多く、活発な議論が行われた。以下では、本会議の内容および所感について報告する。

11月3日に東京を出発し、クアラルンプール国際空港に到着後、タクシーで会議側が手配したホテルへ移動し、チェックインを行った。4日から6日までは学会発表の日程であり、筆者の発表は4日17時からであった。セッションの司会はマラヤ大学中文系の王秀娟先生が務められた。王先生はマレーシア出身の華人研究者で、華人のアイデンティティや感情に関する研究を長年行っており、本報告に対して高い評価を示すとともに、地理学における空間的視点が社会学的な華人研究にも重要な示唆を与える点を指摘してくださった。

6日は文化考察の日として、マレーシア独立記念館、仙四師爺廟、茨廠街（クアラルンプール中華街）などを順次訪問した。クアラルンプールの中華街は日本の横浜中華街とは大きく異なり、主な営業者はインド系の人々であり、建築物を除けば「中華」との関連性は必ずしも強く見られない。これは、マレーシアにおける多民族社会特有の民族間関係のあり方を反映しているものといえる。7日夜にクアラルンプール空港を出発し、8日早朝に成田空港へ到着した。

今回の学会参加は、多分野の研究者との交流の機会を得るだけでなく、マレーシアの華人社会に直接触れる貴重な経験ともなった。最後に、本大会への参加および一連の活動は、本助成に採択いただいたおかげで実現したものである。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

